

# 厚生常任委員会活動レポート

開催日時：令和4年6月14日(火)

開催場所：1・2号委員会室

## 【主な質疑】

### 町立病院

#### ●医療技術職員養成修学資金貸付金について

委員：継続貸付者2名が辞退しましたが返還状況を教えてください。

担当：一人は令和2年度から200万円を貸し付け、もう一人は1年で60万円の貸し付けをしていますが、今年の4月までに全額返還されています。

### 町民生活部

#### ●子育て世帯生活支援特別給付金について

委員：給付対象者のうち、申請が不要の場合もありますが、全対象者を不要とすることはできませんか？また、事務費の200万円と高額な感じを受けますがいかがですか？

担当：高校生以上のお子さんがある場合、児童手当の情報がない方がいるので、どうしても申請をしていただく場合があります。事務費は昨年度の事務費が250万、それに対し今回は8割の200万円という内示を国から受けたものです。

#### ●予防費・消耗品費について

委員：今回、抗原検査キットを5000個追加されますが、前回の分と合わせ1万5000個になります。当初の計画では1人につき1回という条件がありましたが、同じ方が再度濃厚接触に指定された場合には、配布はされていますか？

担当：再度濃厚接触となれば渡すなど柔軟な対応をしています。

委員：実際にそのような対応した方を把握していますか？

担当：どの方に渡したということは把握していますが、保育園や幼稚園などで濃厚接触になった方がいた場合は、施設の方で濃厚接触者を特定して渡していますので、そこで同じ方が含まれているのかまでは把握できていません。

#### ●その他（リトルベビーハンドブックについて）

委員：母子手帳は1キロ以上、身長40センチ以上からの記載が標準ですが、新生児用のICUに入っている300グラム、400グラムで生まれた子どもたちの成長過程の記録ができないことから、リトルベビーハンドブックを導入する自治体が増えて

いるようです。当町で1キロ未満で生まれるお子さんがいるのか、また、そういった事例があった際、リトルベビーハンドブックのような対応は考えられますか？

担当：リトルベビーハンドブックは、1500 未満のお子さんとは低出生体重児で生まれて支援が必要な方で、道内では苫小牧市が配付していることは把握しています。導入に向けた検討というのは今のところありません。1000 グラム未満のお子さんがどれくらいいるかについては、令和3年度の実績においてはゼロ名です。

委員：経験者の方からリトルベビーハンドブックというものが非常に大切だというふうに聞いたので、何らかの記録がつけられる配慮を、今後考えていただければと思います。

### ●その他（地域公共交通活性化協議会について）

委員：厚生委員の意見は、もう一度協議会で、この2路線の問題については、最終的な協議会が終わるまで保留にして、そしてみんなでもう一度、全体的な交通計画を考えて決めることだと私たちは思いますので、そうしていただきたいということです。

担当：持ち帰り財政も含めて内部でしっかり協議をして、阿寒バスとも意見交換をさせてもらっていきしかないと考えています。一方、公共交通会議でその計画を今作っていくということに関しては5月の19日に御説明したとおり、順次、調査ですとか意見交換会ですとか、計画の内容の検討をいたしまして、最終的には計画の樹立ということは、もちろん並行して進めていきたいと考えています。

### ●その他（合葬墓建設事業について）

委員：別海町 25 平米と記載がありますが、中標津も同じ規模にするということですか？

担当：あくまでも参考として数字を載せておりますが、設計等はこれから実際に場所の状況確認、建設課との協議を進めます。サイズの近い形になるかなとは検討しています。

委員：普通のお墓には墓誌という、誰が葬られているかわかるようなものがついています。合葬墓の場合はいろんな人が入りますが、この人が入っていますというのが、お参りに来た人がわかるような仕組みは考えていますか？

担当：現時点では埋葬された方は役場での台帳整備のみを考えていまして、現地に表記するということは考えていません。

## 経 済 部

### ●中標津町牛乳消費拡大推進委員会負担金について

委員：このような発想で事業を新しくやろうということは高く評価をしたいと思います。ただ、この辺で我が地域の牛乳を使った特産料理が町民の間に定着して、現状の消費量よりも消費が増えるという目的のための投資という視点から言えば、今の

この部分は弱いのではないか。例えば 300 ぐらいのレシピが集まるのでレシピ本にするとか、レストランへ行って実際に食べられる食券を配るとか、金額は全然足りないけど、この事業が終わった後に、中標津に新しい特産品ができてレストランでも家庭でもそれが味わえるようなレベルになれば、事業としてすごい成果が上がるのかなと思います。いかがでしょうか？

担当：これまで牛乳を使った料理をミルクラーメンですとかミルクカレーなど、定着している部分もあります。今回のメニューにはいろいろな乳製品を使ったものがたくさんありますので、新しくいただいた意見を参考に各種取り組んでいきたいと思っています。

委員：予算審査特別委員会の時に計画性もってやっていないのではないかとということで指摘してもらいました。答弁は協議会もしっかりしているし、令和4年の予算で問題なく、増額する気もありませんという答弁でした。何か状況が急変してこの150万円が必要になったのかということですが、3月から何が変わったのか、それを教えてください。

担当：予算要求当初100万ということで増額した経過がございました。現状、コロナ禍で消費が落ち込む状況が続く、さらに牛乳消費しなければならない状況になっています。その中で空港の方から人を呼びたい、来てほしいという呼びかけがあり、それに加えて販売やPR、さらなる販路拡大をしたい農林課と農協側の思いが合致しました。さらに今回、国の国費で補助いただけるということで、今以上にどんどん牛乳を飲んで消費していただくことについては農家も望んでおりますことですし、町としてもいろいろやっていきたいと思っていますので、そういった部分の観点から、今回150万円増額させていただいています。

委員：了承できません。答弁は協議会の方から協力的に牛乳とかいろんな製品が集まってくるので、これ以上お金は使わなという言い方でした。中標津空港のイベントは利用促進の予算でやればいい話で、ただ単純に予算が付いて財源があるからやるかっていう程度の話しとしか思えません。1500万で有名人を呼んで大々的にやると言うならわかる。レシピを本にして町民全部に配布すると言うならわかる。そうではなくて、飛行機で中標津に来た人に、ただ食べさせるだけというのは、どうも納得いかない部分があります。

委員：年間を見通して、その中で計画していってもらいたいというのはそのとおりだと思います。片方で牛乳の消費拡大とアイデア、ひらめいた時に果敢なくそれを形にしていくという部分では高く評価したい。今日の議論を重く受けとめて、しっかり政策的に答えが出せるような実効力を示してほしいと思います。